

令和3年度 さいたま市立指扇小学校 自己評価書

校長 _____ 青 木 貴 _____ 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) よい授業（さいたま市「アクティブラーニング型授業」）を実践して、基礎学力の確実な定着を図る。
- (2) 教育環境を安心・安全の観点から見直し、整えられた環境づくりを推進するとともに、いじめ・不登校ゼロを目指し、意図的・計画的な生徒指導・教育相談を組織的に推進する。
- (3) 学校と地域との連携を深め、地域とともに子どもを見守る教育を推進する。
- (4) 「働き方改革推進プラン」に基づき、組織マネジメントにより業務改善を進め、やりがいと充実感のある職場環境を構築する。

2 評価結果について

- ・「よい授業」に関するアンケート4因子のうち、授業スキルに関する項目が昨年度より大きく向上した。ICTの導入に積極的な教員が多く、タブレットを活用した授業を1日に1度以上取り入れることができたことが大きな成果である。また、特別活動を窓口に学校課題研修に取り組み、主体的・対話的な授業づくりを推進することができた。文部科学省の教科調査官、市教委指導主事等を招いた研究授業・研究協議会を計画的に3回実施し、授業スキルの向上に努めてきたことも評価につながっていると考える。
- ・「グローバル・スタディ」は、専科とALTが連携協力し、タブレット端末を効果的に活用して、魅力ある授業を展開したことで、意欲的に学習に取り組む児童が多く見られた。「潤いの時間」については、各担任が様々なエクササイズを取り入れて、人と接する際に必要なスキルの効果的な習得の工夫に努めている。また、効果測定の結果を迅速に集計・分析し、日頃の学級指導に役立てている。
- ・「いじめ未然防止へ向けた取組」に関する項目については、児童、保護者、教職員とも、肯定的な回答が8割を超えている。「自己指導能力の育成」に向けた指導の3つの柱に基づき、全教職員で意図的、計画的な生徒指導を推進してきた成果といえる。長期欠席に係る児童数については、年々減少傾向である。個別最適な学びの実現に向けて、「支援室」を設け、対応教諭が児童の実態や発達段階に応じた支援に努めている。
- ・「家庭・地域との連携、開かれた学校づくり」に関わる項目では、コロナ禍により様々な制限があったにもかかわらず、現状維持の評価を得た。感染予防対策の徹底を図りながら、可能な範囲で連携してきた成果であるといえる。運動会には保護者にたくさん来校いただき、満足の声をいただいた。次年度もコロナ禍においても学校の様子を保護者、地域に公開できるよう、更に工夫・改善を図っていく。
- ・「働き方改革」について、業務改善委員会を計画的に行い、学年定時退勤日の設定、メールによる出欠連絡、日報電子化、勤務時間内電話対応など、様々な取組を率先して取り入れた。結果として、6-11月期の時間外在校等時間の平均が、前年度比1割程減少した。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・「主体的・対話的で深い学び」及び「ICT」に関する学校課題研修を推進し、各教員の指導力向上を図る。また、「よい授業」を着実に実践するとともに、タブレット端末を中心にICTを活用した学習を推進する。
- ・「自己指導能力を育成するための3つの柱」をもとに、意図的・計画的な生徒指導をさらに推進し、基本的な生活習慣の定着、本物のあいさつ、豊かな心の育成をさらに深めていく。
- ・長期欠席に係る児童等、配慮を要する児童に対し、積極的、計画的、効果的に支援室を活用し、「個別最適な学び」を充実させることにより、状況改善に努めていく。
- ・授業参観や学校公開の実施が難しかったため、コロナ禍であっても学校の様子や行事等を保護者、地域の方に公開できる方法を検討し、積極的に実施したい。